

〈要約〉

入学前教育と e ラーニングシステムの教育効果について

Effect of E-Learning System for Pre-Enrollment Education

柴 田 徹
Toru Shibata

短期大学の AO 入試に対して、学科試験を実施しないため学生の学力低下を招くとか、早期に合格が決まり合格者（主に高校生）の学習意欲低下につながる等、制度の問題点を指摘する声がある。その対策の一つとして入学前教育が注目されている。入学前教育は、基礎学力の不足する学生、すなわち、以前ならば学科試験に合格しなかったような学生が、大学に入学してしまっていることから、大学の授業が理解できない学生を救済する目的で始まったとされる。この入学前教育の提供方法として、ICT（情報通信技術）を利用した e ラーニングシステムがある。

この e ラーニングシステムでは、オープンソフトウェア（無料）で提供される Moodle というシステムを利用した研究ケースも多く、それらの研究論文を見ると Moodle を利用した教育方法／教育効果／システム構築方法等の内容が目立つ。本論文では、具体的な短期大学の e ラーニングシステム事例を取り上げ、その活用方法を分析している。また、e ラーニングシステム活用の“鍵”が教育コンテンツにあることを指摘し、汎用的な教育コンテンツを提供している放送大学 ICT・遠隔教育センターの事例を分析するとともに、第3回教育 IT ソリューション EXPO でのインタビュー調査から最近のトレンドとして、各大学独自の教育コンテンツの開発に注目していることにも言及している。

入学前教育に e ラーニングシステムを導入することは、技術的な ICT 側から見て大きな問題の無いことが理解できた。残るは、費用的な投資対効果の判断や、運用的な教育コンテンツ制作負担への理解である。真に学生の学力向上を求め、社会に貢献できる人材を輩出したい教育機関であれば、積極的に取り組むべき施策である。